

クラス	TU303	担当教員	江村 和彦
テーマ	子どもの「つくる、あそぶ」と自分の「つくる、あそぶ」		
著書・論文 研究課題等	<p>著書：(共著) 幼児造形の研究-保育内容[造形表現]、(共著) 造形教育の教材と授業づくり  論文：①ものをつくる生涯学習活動の現状と課題~陶芸サークルなごみ会を通して~ ②「ナンデモ絵筆で描こう」の実践報告-あいちトリエンナーレ 2010 での子どもとの造形活動 ③造形素材としての粘土の特性についての一考察-粉からつくる焼き物づくりを通して ④保育につながる「場」としてのワークショップ ⑤土粉遊びの実践研究 ⑥学校美術館の実践報告 ⑦感性・創造の授業実践報告~様々な素材体験によって培う発想について~  研究課題：粘土遊び、地域との連携によるものづくり教育活動、陶芸制作（色絵磁器の表現方法・動物、空想の生き物のオブジェ制作）、道具について、特撮ヒーローの造形と色彩</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：造形あそび、素材体験、図画工作研究、制作			
<p><b>目的</b> 造形活動は、直接モノとかかわりながら感じて表す相互作用によって生み出されるものである。子ども達は、様々な環境の中で、五感を通じて創造的な活動を生み出していく。それら環境や素材とのかかわりは、さぐりながら生み出す「さぐる造形」にとって重要であり、私たち自身が子どもたちとともに触れて感じる体験を重ねることが重要である。その体験とは、さまざまな素材に体全体でかかわり、またはさみ、のこぎりや金づちなど道具を用いて、形を変えたり組み合わせたりすることである。造形活動の過程そのものが、想像と思考の過程である。その過程を保障するためにも、自ら様々な事物にふれ、つくり、あそぶことで感じる力を身につけることを目的とする。この自ら「つくる、あそぶ」ことと、子どもの「つくる、あそぶ」の相違点は何か、常に問い続けてほしい。</p> <p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な造形素材による制作とそれにまつわる道具の理解</li> <li>・保育園、幼稚園、施設や小・中学校などでの造形遊び・制作の実践から子どもとの関わりを考える</li> <li>・造形教育の理解のための美術館、博物館鑑賞活動及びワークショップ研究</li> <li>・制作を通して芸術と教育・保育の関わり方を考える</li> </ul> <p><b>方法、授業計画等</b></p> <p>3年次では、さまざまな造形素材に触れて土粘土を中心に造形遊びを体験する。また保育園、幼稚園・小学校などで造形遊びを通して素材に対する幼児・児童たちの様子を観察する。さらに自ら計画を立てて、グループ実践と <u>個の実践（制作）</u> を重ねていく。3年次後半から卒業論文、卒業制作、両面からテーマを決めていく。年に1回程度、美術館や博物館、各種体験施設を訪ね、造形芸術と子どもとの関係について学ぶ。</p> <p>4年次は卒業研究を進めつつ、学外での造形実践を3年生らとともに計画、実践していく。卒業制作は学内展示を予定している。実践、制作には、材料や道具などに費用が掛かる。すべて自費で行うが、費用を抑える工夫や材料の確保の方法について、<u>具体的な実践（制作）</u> を重ねて、さまざまな現場に対応できる力を身につける。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>★図工や美術の得意、苦手などは、関係ありません。子ども達・児童生徒たちが楽しく過ごす活動のひとつである造形を理解するために、熱意をもって臨んでほしいと考えます。</p> <p>★学外活動を不定期に <u>夏期・冬期・春期の休み</u> に行います。数多くの活動への参加が望ましいです。</p> <p>★<u>実践、制作についての材料は実費で行う</u> ことを念頭においてください。その工夫を楽しむ余裕を持ってください。</p> <p>★自分で考える主体性を持ってください。</p>			